

山頭火  
孤独な旅人



うしろ姿の山頭火

「放浪」にあこがれる。しかし、それはあくまであこがれであって、現実とはなれないのが通常である。

しかし山頭火は、その放浪をやつてのけた。妻子とは別離して。山頭火がこの佐久地方へとふらりとやつてきたのは、昭和11年、二・二六事件が起きた不穏な年であった。

この山頭火の旅は、本人いわく「死に場所を求めて」の旅であるという。

カッコウが鳴く5月、山頭火は浅間山麓を歩いた。そして、浅間山麓の清らかな水を味わったという。また、碓氷峠をさまよひ、次の句を詠んだ。

遠くなり近くなる水音のひとり

懐古園では藤村を想い

ゆうかぜさわがしく私も旅人

牧水を想い

その石垣の草の青さも

の句を詠んだ。

山頭火の句には孤独の影がつきまとっている。



遠くなり近くなる水音のひとり

企画展 “山頭火 信濃の旅”

山頭火の信濃の旅を追う企画展です。ご覧ください。■11月25日(日)まで開催中

御代田町の人口(10月1日現在)

●人口 14,310人(先月比+3) 男 7,166人 女 7,144人  
●世帯数 5,591世帯(先月比+6) ●外国人登録者数 834人

みよた広報 やまゆり ●発行/御代田町 〒389-0292 長野県北佐久郡御代田町大字御代田2464-2 ☎0267-32-3111